

事務事業評価シート

事業番号 30	事務事業名 文化財保護事業費(デジタル技術の活用)	所管部課 社会教育課
------------	------------------------------	---------------

事務事業の概要	事務事業の目的【1】		根拠法令等【2】
	下野谷遺跡の解説及びCGIによる縄文時代のムラの様子などの視覚的な体感を提供するアプリ「VR下野谷縄文ミュージアム」を活用し、国史跡下野谷遺跡の価値と魅力をわかりやすく伝え多くの方に学びを深めてもらうことを目的とする。		☐ 法律 ☐ 条例・規則等 ☐ 政令・省令 ☐ 要綱・要領
	事業内容・実施方法等／補助の概要【3】		
	【事業内容／実施方法】 ■「VR下野谷縄文ミュージアム」アプリの公開・運用 ・対象OS: iOS 14.0以降、AndroidOS 6.0以降 ・VRで当時の様子を観察できる「縄文バーチャル探索」、遺跡を紹介する「下野谷ムービー」などが楽しめる。 ■アプリをインストールした端末の活用 保有端末: タブレット50台(配置箇所: ふれあいプラザ3台、郷土資料室3台、社会教育課44台)、スマートフォン3台(配置箇所: 社会教育課) ①市主催イベントでの活用 ・下野谷特別展など、下野谷関係のイベントで来場者へ貸出し(令和5年度実績: 2回) ②教材としての利用 ・まちなか先生(学校出前講座)実施の際の利用(令和5年度実績: 7校) ③その他団体への貸出し ・大学などへ貸出し(令和5年度実績: 1団体)		
事業開始時期【4】		平成29年度	実施形態【5】
			☒ 直営 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ その他 ()

事業費データ	項目	令和3年度 (決算額)	令和4年度 (決算額)	令和5年度 (決算見込額)	令和6年度 (予算額)	単位
	事業費(A) 【6】	997	3,513	18,537	1,168	
内訳	主要な経費: コンテンツ運用委託料	997	997	997	1,168	
	その他: コンテンツ修正委託料	0	2,516	17,540	0	
財源	国庫支出金・都支出金					千円
内訳	地方債					
	その他 ()					
	一般財源	997	3,513	18,537	1,168	
	所要人員(B) 【7】	0.02	0.02	0.02	0.02	人
	人件費(C)=平均給与×(B)	146	144	144	144	千円
	会計年度任用職員報酬等(C') 【8】					千円
	総コスト(D)=(A)+(C)+(C')	1,143	3,657	18,681	1,312	千円
	単位当たりコスト 【9】					
	(E)=(D)/ (ダウンロード数)	2	11	68	—	千円

評価指標	指標名	令和3年度 (実績値)	令和4年度 (実績値)	令和5年度 (実績値)	令和6年度	単位
【10】	①ダウンロード数	712	325	275		DL
	《指標の説明・数値変化の理由 など》【11】					

事業環境等	市民・関連団体等の意見【12】 (アンケート結果など)	イベントや学校出前講座の実施時には、児童・生徒のアプリへの関心が高く、「空から見た『したのやムラ』」や「クイズ」に人気が集中していた。大人からは、「360° VR」について、当時の情景がわかりやすい、といった声が聞かれている。	
	他団体のサービス水準との比較【13】 (平均値、本市の順位など)	☒ 上 ☐ 中 ☐ 下	26市で国史跡をもつ自治体(14市)での比較について、アプリを活用している自治体は本市を含め、3市のみとなっている。
	代替・類似サービスの有無【14】	☐ 有 ☒ 無	

【一次評価】

検証項目【15】		判定	判定理由
A	事業の必要性	高い	下野谷遺跡の価値と魅力をわかりやすく伝え、周辺地域の活性化に資する事業であり、必要性は高い。
	実施主体の妥当性	適切	文化財を活かしたまちづくりに向け、市が主体となっていく必要がある。
B	事業（補助）の対象	適切	スマートフォンアプリを活用することで、国内のみならず国外にも本市の文化財をPRできている。
	事業（補助）の内容	適切	整備工事に合わせ、アプリの内容に修正を加えており、適切である。
	受益者負担	適切	下野谷遺跡の周知を行う上でも、本アプリは無償提供することが適当である。
	事業コスト	高い	アプリを活用している2市と比較して事業コストは高い。
	業務負担	少ない	専門的技術が必要であることから、業務はほぼ委託しているため負担は少ない。
検証項目の見方 A: 事業実施の意義を検証する項目 B: 事業の内容・実施方法を検証する項目			
一次評価【16】		評価の判断理由及び現状の課題など【17】	
☐ 拡充 ☒ 継続実施 ☐ 改善・見直し ☐ 抜本的見直し ☐ 廃止		令和4年度以降、ダウンロード数が低迷しており、更なるユーザーの獲得のため、令和5年度には「現地でない」と機能が制限される」仕様の修正や、下野谷遺跡第1期整備に併せて、CGや、解説項目追加などの修正を行った。このようなコンテンツの修正に加え、サーバー運営費などのランニングコストの高騰が課題であるが、利用者からは好評の声をいただいていることから、今後はSNSでの広報や貸出し機会を増やすなど、イベント等での活用を促進し、アプリの認知度を高めていく取組を行う。	

【二次評価】

検証項目		判定	判定理由
A	事業の必要性	普通	下野谷遺跡を市の観光資源等としてPRする上では、アプリと連携した取組について一定の必要性がある。
	実施主体の妥当性	適切	文化財を活かしたまちづくりに関する取組のため、市が主体となることは妥当である。
B	事業（補助）の対象	適切	学校出前講座での活用や市内外からの訪問者による閲覧を目的としており、適切である。
	事業（補助）の内容	課題有	事業開始当時の現地は更地であったが、現在は遺跡が復元されているため、VRの意味合いが薄れている。
	受益者負担	適切	下野谷遺跡をPRする観点からは、無償であることは適切である。
	事業コスト	高い	アプリの運用やコンテンツ改修、タブレット等の更新・管理等、ランニングコストが高額である。
	業務負担	少ない	業務委託により、職員負担が少なくなっている。
検証項目の見方 A: 事業実施の意義を検証する項目 B: 事業の内容・実施方法を検証する項目			
二次評価【16】		評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等【17】	
☐ 拡充 ☐ 継続実施 ☐ 改善・見直し ☒ 抜本的見直し ☐ 廃止		市の観光資源である下野谷遺跡の魅力発信を目的として、デジタル技術の活用も含め、PRIに資する取組を充実させる必要性は一定認められる。一方で、アプリのダウンロード数が低迷していることや、事業内容と比較してアプリやタブレット等の更新・維持管理等、ランニングコストが高額であることが課題である。事業開始当初と異なり、復元された展示物もあることから、VRコンテンツを提供する意味合いが薄れている。令和5年度に予算をかけコンテンツ改修を行っているが、タブレット等の更新時期を見据えた上で、費用対効果の視点を含めた検証と事業設計全体について抜本的な見直しが必要である。	

【外部評価】

外部評価【16】	評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等【17】
☐ 拡充 ☐ 継続実施 ☐ 改善・見直し ☐ 抜本的見直し ☐ 廃止	

【行革本部評価】

行革本部評価【16】	評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等【17】
☐ 拡充 ☐ 継続実施 ☐ 改善・見直し ☐ 抜本的見直し ☐ 廃止	

改善の方向性と今後のスケジュール【18】	
----------------------	--